



相手の気持ちを考えた言動ができる子の育成

本校が目指すもの②



①から日が経ってしまいました。本校の目指すもののうち、本号では“知・徳・体”の“徳”の部分についてお知らせしたいと思います。教育目標は「思いやりのある子」で、重点目標は「相手の気持ちを考えた言動ができる子の育成」です。これは、生きていく基盤である心の実態として「不用意な言葉、乱暴な言葉で友だちにイヤな思いをさせていないか？」という思いから設定しています。ここで目指す児童像は、次の3つです。

- ・ 明るく親切で、あいさつができ、誰とでも仲よくできる子ども
- ・ お互いを尊重し、協力し合って、共に向上しようとする子ども
- ・ 善悪の判断ができ、人や物、自然を大切にできる子ども

具体的な取り組みとして、次のことなどを実践していきます。

(1) 「思いやりの心」の育成に努めます。

- ・ 挨拶、返事、言葉遣い、礼儀を徹底させる。また、ソーシャルスキル、コミュニケーション能力を意図的に育成する。
- ・ 規範意識の向上を意図した指導を継続する。
- ・ いじめ作文・ポスター・標語へ全員応募させる。
- ・ 縦割り班活動（くすのき36）での関わりを推進する。
- ・ 特別な支援を要する子との関わりを重視し、進める。

(2) 道徳教育のさらなる充実を図ります。

- ・ 教育活動全体で重点内容を意識した実践を図る。
- ・ 道徳の授業を充実させ、道徳的实践力の育成を図る。

(3) 特別活動を重視し、なすことによって学ぶ充実感を味わわせます。

- ・ 学級の当番活動・係活動、児童会活動、学校行事への主体的な参画を目指す。

(4) 生徒指導の機能を生かした、教育環境づくりに努めます。

- ・ 賞賛し合える雰囲気、一人一人が活躍できる場と機会を設定する。
- ・ 善悪のけじめができ、安心して生活できる雰囲気づくりをする。
- ・ “自分たちで決める”、“自分たちで考える”生徒指導を実践する。

(5) 「自分たちの大切な学校をきれいに」という意識を醸成します。

- ・ 校舎内外の環境整備・美化活動を推進する（掃除の上手な学校）。

(6) 情報社会を生きていく上での正しい判断力などを身につけさせます。

- ・ 情報モラル教育の授業を実践する。